

事務事業名	コード	19200 育児支援事業	予算科目	会計	款	項	目	担当課	健康管理課	担当班	支援班	
基本施策	7	子育て支援の充実	根拠法令	母子保健法、食育基本法、地域保健法等	4	1	3	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業 (重点施策) 重2	<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画	<input checked="" type="checkbox"/> 新市建設計画	<input checked="" type="checkbox"/> 定住自立圏構想
施策体系	15	結婚・子育て環境の整備	戦略事業	71 育児支援事業					<input type="checkbox"/> 主要事業			

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	安心して育児に取り組めるよう、相談支援体制を整え(妊娠・出産・子育て～思春期までの“各種学級、教室及び相談”を開催)、育児不安の軽減を図り、育児の仲間づくりを支援する。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
母子保健法や各種計画に基づき、合併以前から各育児支援事業が実施されていた。合併後には、1市3町で実施していた育児支援事業の内容の統一を図り、実施している。	少子化・核家族化・地域との繋がりの希薄化が進み、またインターネット等で情報が簡単に手に入る時代となり、育児不安を抱えている方が多い傾向にある。その中で専門的かつ継続的な支援が出来るよう育児支援事業を実施していく必要がある。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
各種学級、教室及び相談の参加者より、「よかった」「安心した」「また利用したい」「継続して欲しい」といった肯定的な意見が多く聞かれている。また、子育て学級参加者においては、その後自主的育児サークル結成に至る経緯もあり、仲間作りを希望している方も多い。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(28年度の決算) 単位:千円	
1. 臨時雇賃金	1,066 心理相談員・言語聴覚士、保育士、歯科衛生士、助産師、保健師への賃金
2. 委託料	220 心理相談員派遣委託料
3. 消耗品費	231 各育児支援事業の指導用教材費、調理実習費
4. 報酬	138 保健事業嘱託医
5. その他	34 両親学級・子育て学級通知用ハガキ、発達相談・育児相談通知
② 特定財源の内訳(28年度の決算) 単位:千円	
1. 国庫支出金	0
2. 都道府県支出金	0
3. 地方債	0
4. その他	0

事業費	費目内訳	1. 臨時雇賃金	千円	907	1,020	1,096	1,066	1,271
		2. 委託料	千円	283	278	220	220	256
財源	事業費計(A)	3. 消耗品費	千円	255	228	180	231	201
		4. 報酬	千円	138	138	138	138	138
		5. その他	千円	171	39	81	34	52
		1. 国庫支出金	千円	1,754	1,703	1,715	1,689	1,918
		2. 都道府県支出金	千円			1,712		
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円			3		
		5. 一般財源	千円	1,754	1,703	0	1,689	1,918

前年度増減理由	子育て学級が1コース減小となったこともあり事業費は減少している。
---------	----------------------------------

従事職員数	常時	8人	最大	人	×	日	=	延べ	0人
-------	----	----	----	---	---	---	---	----	----

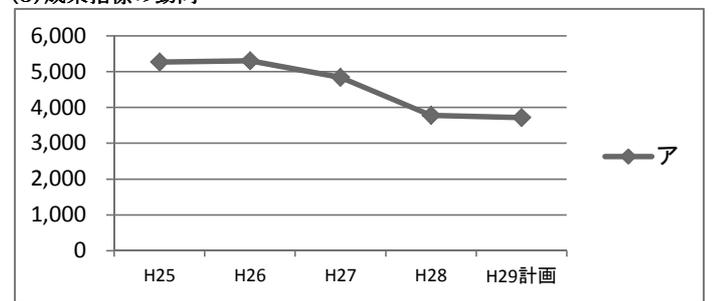
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	28年度実績(28年度に行った主な活動) ①両親学級 ②子育て学級 ③離乳食教室 ④育児相談 ⑤発達相談 ⑥歯科相談 ⑦親子あそび教室 ⑧巡回歯磨き教室 ⑨赤ちゃんふれあい体験 ⑩母子保健訪問指導、面接・電話相談 ⑪育児サークル育成支援(自主的サークル・多児サークル・小さく生まれたお子様や病児の交流会) ⑫歯科健康教育	⇒	ア 育児の仲間づくり支援事業延べ実施回数(両親学級、子育て学級、離乳食教室、親子遊び教室、赤ちゃんふれあい体験、育児サークル実施回数)	回	290	305	254	174	167
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	イ 相談件数(育児相談、発達相談、歯科相談、面接・電話相談延べ件数)	件	1,843	1,989	2,054	2,429	2,110
	乳幼児と保護者 育児不安の軽減が図れる様、仲間作りが出来る	⇒	④ 成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
		⇒	ア 育児の仲間づくり支援事業延べ参加者数(両親学級、子育て学級、離乳食教室、親子遊び教室、赤ちゃんふれあい体験、育児サークル参加者数)	人	5,264	5,306	4,838	3,781	3,714

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	大きい	②	評価結果	①	
	普通			②	(2)
	小さい			③	
			④⑤		
			⑥		
			⑦⑧		
			⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イ
③ 今年度取組事項	内容
H29年4月	母乳相談を年9回実施し、産後の育児不安の軽減を図る。
今後の方向性	H29.4月
	両親学級実施回数1コース4回から1コース3回に変更。1回あたりの内容の充実を図る。また赤ちゃんふれあい体験が1校今年度他校と対象を合わせ休止となるため実施数としては減少する見込みあり。